

# 積雪や凍結路面に係る救急事故に注意しよう

## ≪積雪や凍結路面に係る救急事故の発生状況≫

### 1 積雪や凍結路面に係る救急搬送人員

毎年12月から3月までの期間に、積雪や凍結路面により滑って転倒した際に受傷する事故（以下「ころび事故」という。）などによる救急事故が多くなります。

令和元年12月から令和2年<sup>1)</sup>3月までの期間では、東京消防庁管内<sup>2)</sup>で20人が救急搬送されています（図1）。

また、過去5年間で1,250人が救急搬送されており、そのうち9割以上の1,183人は「ころび事故」による救急搬送です。

特に積雪の多かった平成29年12月から平成30年3月までは、救急搬送が895人と最も多く、降雪の有無によって救急搬送人員が大きく変化しています。



- 1) 令和2年は暫定値
- 2) 東京都のうち稲城市、島しょ地区を除く地域

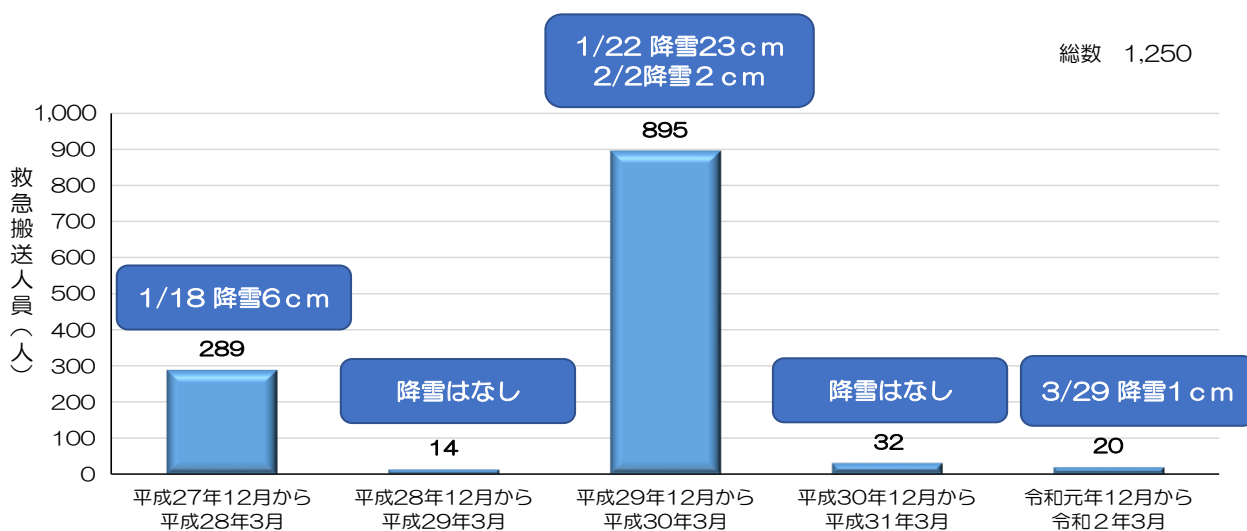


図1 積雪や凍結路面に係る救急搬送人員

## 2 月別の救急搬送人員

月別に見ると1月が1,149人、次いで2月が80人と多くっており、搬送人員が過去5年間で最も多かったのは、平成30年1月の846人です（表1）。

表1 月別の救急搬送人員（人）

	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年12月から 平成28年3月	0人	283人	6人	0人	289人
平成28年12月から 平成29年3月	4人	6人	4人	0人	14人
平成29年12月から 平成30年3月	4人	846人	43人	2人	895人
平成30年12月から 平成31年3月	0人	6人	26人	0人	32人
令和元年12月から 令和2年3月	0人	8人	1人	11人	20人
合計	8人	1,149人	80人	13人	1,250人

## 3 気象状況と救急搬送人員の関係

救急搬送人員の最も多かった平成30年1月について、気象状況<sup>3)</sup>と救急搬送人員の関係をみると、22日に降雪があり、降雪後の数日間は路面凍結などの理由により「ころび事故」が発生するなど、1月だけで846人が救急搬送されています（図2）。

3) 気象庁の気象統計情報の東京で観測・測定した数値を使用

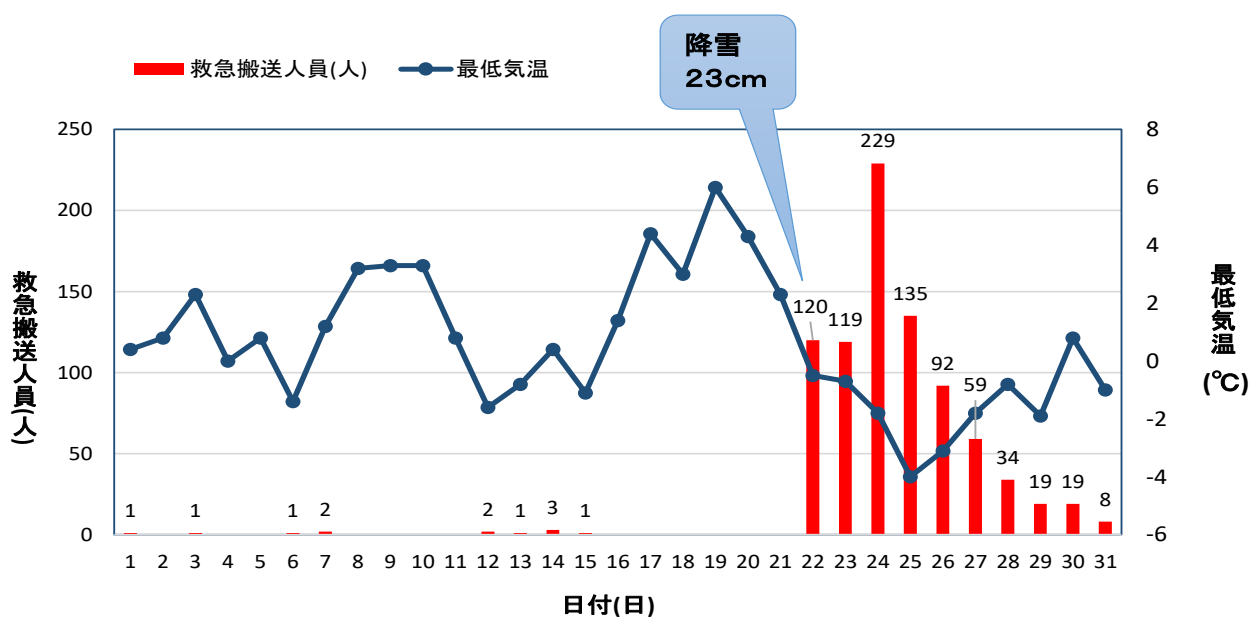


図2 気象状況と救急搬送人員（平成30年1月）

#### 4 年齢層別救急搬送人員

年齢層（5歳単位）別にみると、65歳から69歳が136人と最も多く救急搬送されています（図3）。

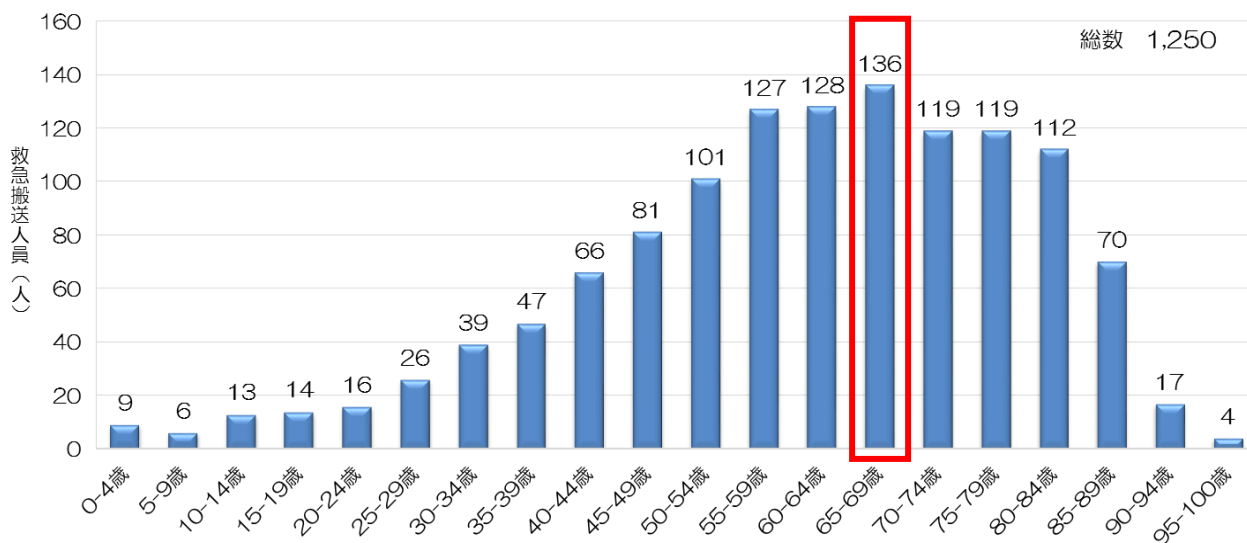
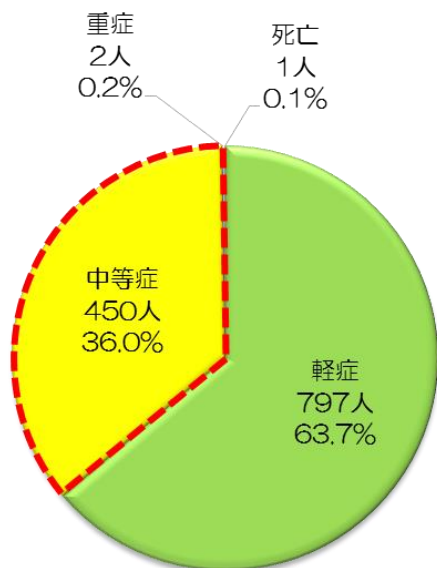


図3 年齢層別救急搬送人員（過去5年）

#### 5 初診時程度別救急搬送人員

初診時程度別にみると、約4割が中等症以上と診断されています（図4）。



【初診時程度】  
 軽 症：入院を要しないもの  
 中等症：生命の危険はないが入院を要するもの  
 重 症：生命の危険が強いと認められたもの  
 死 亡：初診時に死亡が確認されたもの

図4 初診時程度別救急搬送人員（過去5年）

## 《事故事例及び予防策》

### 1 事故事例

#### 外で滑って・・・

スーパーへ買い物に行く際に、歩道の雪で足を滑らせて後方へ転倒し、腰部を受傷した。(20代 軽症)

#### バスから降りた際に・・・

バスから降車した際に、凍結した路面により滑って転倒し、足首を受傷した。(40代 中等症)

#### 雪下ろし中に・・・

脚立に登り除雪作業をしていたところ、バランスを崩して約2mの高さから転落し、腕を受傷した。(70代 中等症)

### 2 予防策

○靴は滑りにくいものを選びましょう。

○足元に十分気を配りゆっくりと歩きましょう。

○降雪後の数日間は、事故が多いことから、特に注意を払いましょう。

○天候を事前に情報収集し、残雪や凍結路面を避け、余裕を持って行動しましょう。